

2021年9月期 決算説明資料

2021年11月

フィンテック グローバル株式会社

(東証第二部 : 8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

2021年9月期 通期業績 事業概要

総括	3
連結業績概況	4
四半期連結業績推移	5
セグメント別業績	6
投資銀行事業	8
エンタテインメント・サービス事業	9
投融資残高の推移	11
受託資産残高の推移	12
連結貸借対照表	13
連結損益計算書	14
連結キャッシュ・フロー計算書	15

業績見通し

連結業績予想	17
投資銀行事業の戦略	18
エンタテインメント・サービス事業の戦略	20

連結経営指標等の推移	26
会社概要	27
免責条項	28

2021年9月期 通期業績 事業概要

**投資銀行事業の好調により増収。各段階利益は黒字化。
エンタテインメント・サービス事業は、想定を超えるコロナ再拡大により、
ムーミンバレーパーク運営子会社が見込みより大きく減収。経常損失10億円計上。
この結果、売上、利益とも期初予想には至らず。**

- ・ 期初予想は、メッツアについてコロナ禍の影響は継続するものの、徐々に回復することを前提として算出したが、7月以降のデルタ株急拡大など、影響は想定より長期に渡った。

①投資銀行事業は、PE投資、航空機AMが伸長。増収、増益。

- ・ プライベートエクイティ投資（PE投資）案件の組成が、想定通り順調に推移し、業績牽引。
- ・ 航空機アセットマネジメント（航空機AM）は、コロナ禍の影響で技術サービス提供依頼が増加。計画を上回る。

②エンタテインメント・サービス事業は、ライセンス関連が増収となるも、 メッツア関連はコロナ禍により来園者数の低調が続き、減収。 セグメント損失は縮小。

- ・ メッツアは、来園者数がQ1にイベントなどで集客し回復傾向にあったが、Q2以降は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言等により、低調となり減収。コスト削減により、セグメント損失は縮小。
- ・ ライセンス関連は、ブランディングが「巣ごもり」需要の取り込みにつながり、増収。

連結業績概況

(単位：百万円)

	2020年9月期	2021年9月期	増減額 (前期比)	増減率 (前期比)	当初 (2020/11/10) 発表予想	前回 (2021/9/17) 発表予想
売上高	6,841	8,107	1,266	18.5%	9,000	8,070
売上総利益	2,313	3,370	1,057	45.7%	—	—
営業利益	△992	178	1,171	—	540	120
経常利益	△1,135	115	1,251	—	370	50
親会社株主に帰属する 当期純利益	△1,186	130	1,316	—	250	100
償却前営業利益	△264	817	1,081	—	—	—

・ 償却前営業利益 = 営業利益 + 売上原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

売上高

メツア関連の売上が減少するも、投資銀行事業は好調に推移して増収。

- 投資銀行事業は、PE投資案件の組成により、業績は大きく進捗。
航空機AMも好調に推移したことで、増収。
- エンタテインメント・サービス事業は、ライセンス関連が増収となるが、
メツア来園者数が低水準で推移したことにより、減収。

売上総利益

原価率が低い投資銀行事業の業務受託等の売上伸長により、粗利は大幅増加。

営業利益

売上総利益の増加と販管費の減少により前期比1,171百万円改善。黒字転換。

- 販管費は、メツア関連でコストを削減し、前期比113百万円減。

親会社株主に帰属する 当期純利益

前期比1,316百万円改善し、最終黒字を達成。

四半期連結業績推移

(単位：百万円)

	2020/9期					2021/9期					前Q4比 増減額 (増減率)	前Q4累計比 増減額 (増減率)
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q4 累計	Q1	Q2	Q3	Q4	Q4 累計		
売上高	2,209	2,060	926	1,644	6,841	2,020	2,854	1,536	1,696	8,107	51 (3.2%)	1,266 (18.5%)
売上総利益	696	604	368	643	2,313	825	1,558	462	524	3,370	△ 118 (△ 18.5%)	1,057 (45.7%)
営業利益	△258	△236	△398	△99	△992	53	787	△375	△287	178	△ 187 (-)	1,171 (-)
経常利益	△297	△263	△428	△146	△1,135	9	821	△393	△321	115	△ 175 (-)	1,251 (-)
親会社株主に帰属する 当期（四半期）純利益	△284	△296	△464	△140	△1,186	△63	681	△298	△189	130	△ 48 (-)	1,316 (-)
償却前営業利益	△5	△23	△307	73	△264	224	962	△232	△136	817	△ 209 (-)	1,081 (-)

・ 償却前営業利益 = 営業利益 + 売上原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

セグメント別業績 - 1

- ・投資銀行事業の売上高、セグメント利益が増加。連結業績を牽引。
- ・エンタテインメント・サービス事業は、Q1はメッツアの回復、ライセンス関連の伸長により、黒字化するも、Q2~Q4は緊急事態宣言等によるメッツア来園者数減少により、セグメント損失を計上。

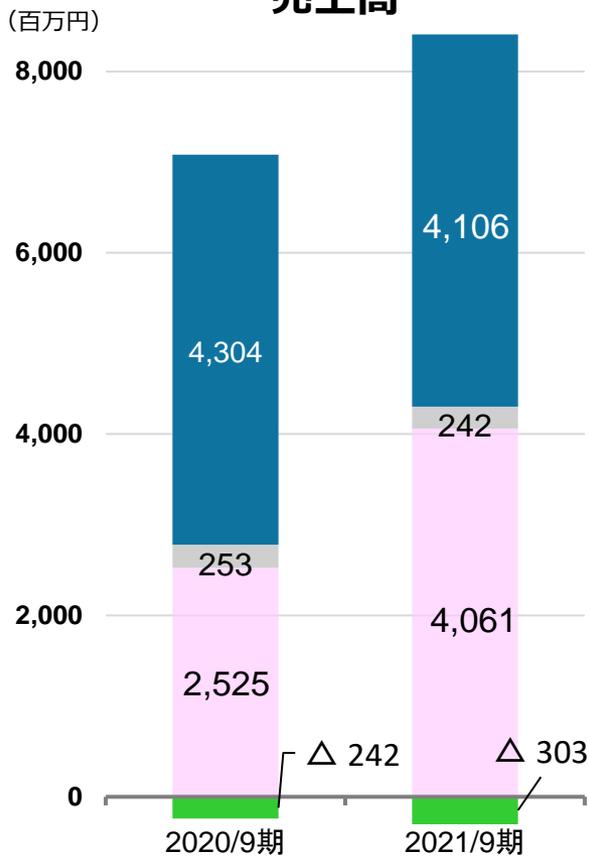
(単位：百万円)

報告セグメント	科目	2020/9期					2021/9期					前Q4比	前Q4累計比
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q4累計	Q1	Q2	Q3	Q4	Q4累計		
投資銀行事業	売上高	555	849	497	623	2,525	812	✓1,856	632	759	✓4,061	136	✓1,536
	売上総利益	316	403	325	437	1,482	499	✓1,492	335	399	✓2,725	△38	✓1,243
	セグメント利益	△71	36	26	118	109	142	✓1,180	△47	28	✓1,303	△89	✓1,193
公共コンサルティング事業	売上高	64	62	43	83	253	62	56	43	80	242	△3	△11
	売上総利益	33	34	25	57	151	38	31	29	48	148	△8	△2
	セグメント利益	△7	△5	△12	10	△15	△2	0	△6	6	△3	△4	11
エンタテインメント・サービス事業	売上高	1,647	1,202	448	1,006	4,304	1,223	1,007	939	935	✓4,106	△70	✓△197
	売上総利益	376	190	50	180	797	327	64	132	109	632	△71	△165
	セグメント利益	△18	△142	△253	△101	△515	47	△203	△175	△170	✓△501	△69	✓14
調整額 (セグメント間取引 消去又は全社費用)	売上高	△57	△54	△62	△68	△242	△78	△66	△79	△78	△303	△10	△60
	売上総利益	△29	△24	△32	△32	△118	△39	△30	△34	△32	△136	0	△18
	セグメント利益	△161	△124	△158	△126	△571	△134	△188	△145	△151	△619	△24	△48
連結P L計上額	売上高	2,209	2,060	926	1,644	6,841	2,020	2,854	1,536	1,696	8,107	51	1,266
	売上総利益	696	604	368	643	2,313	825	1,558	462	524	3,370	△118	1,057
	セグメント利益	△258	△236	△398	△99	△992	53	787	△375	△287	178	△187	1,171
関連事項			ムーミンバレーパーク 16日間 臨時休園	ムーミンバレーパーク 64日間、 メッツア ピレージ 44日間 臨時休園			緊急事態 宣言 (1都3県は 1/8- 3/21)	緊急事態 宣言 (東京都は 4/25- 6/20)	緊急事態 宣言 (東京都は 7/12-9/30 埼玉県は8/2 -9/30)				

- ・各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高です。
- ・調整額(セグメント利益)(2021年9月期Q4累計は△619百万円)には、セグメント間取引消去(2021年9月期Q4累計は220百万円)及び報告セグメントに配分していない全社費用(2021年9月期Q4累計は△840百万円)を含む。全社費用は合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

セグメント別業績 - 2

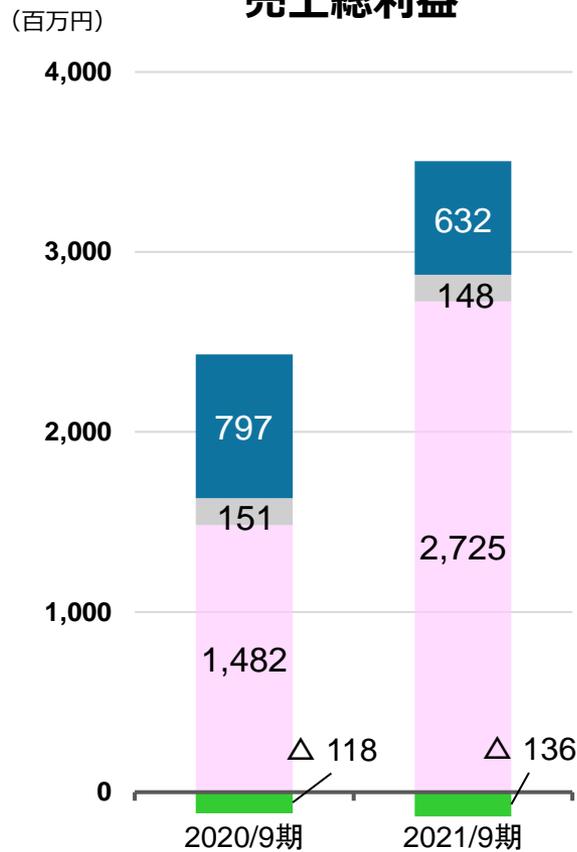
売上高



6,841

8,107

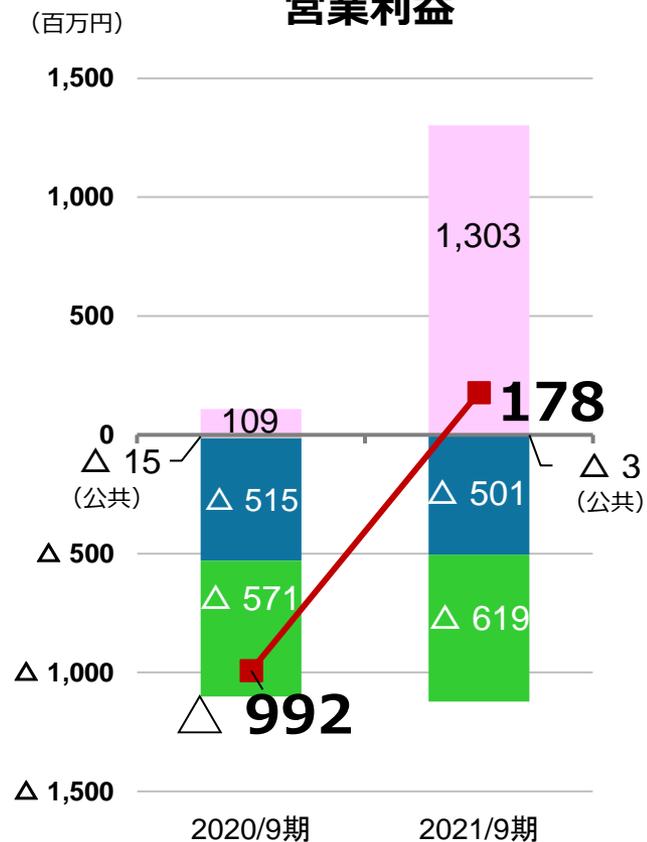
売上総利益



2,313

3,370

営業利益



2020/9期

2021/9期

1,266百万円増 (18.5%増)

1,057百万円増 (45.7%増)

1,171百万円改善

(注) セグメント別内訳は、他のセグメントとの取引を消去しない数値を使用。

投資銀行事業

公共コンサルティング事業

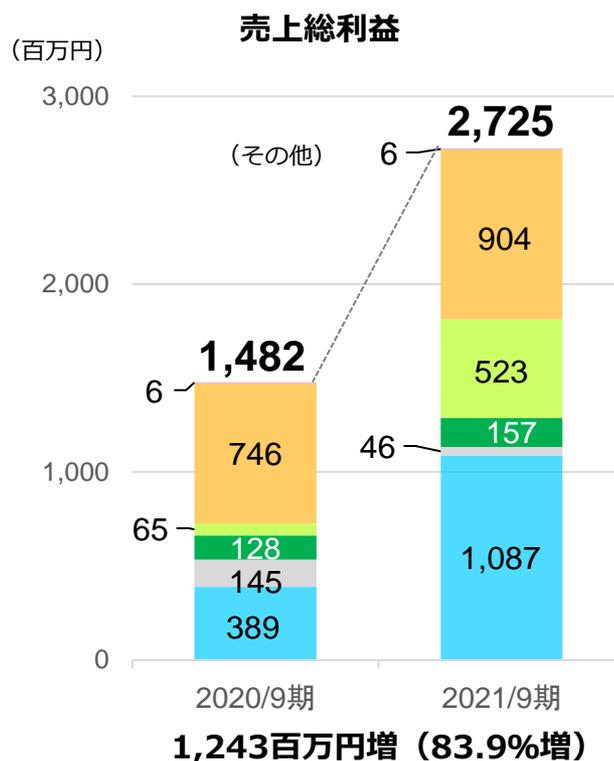
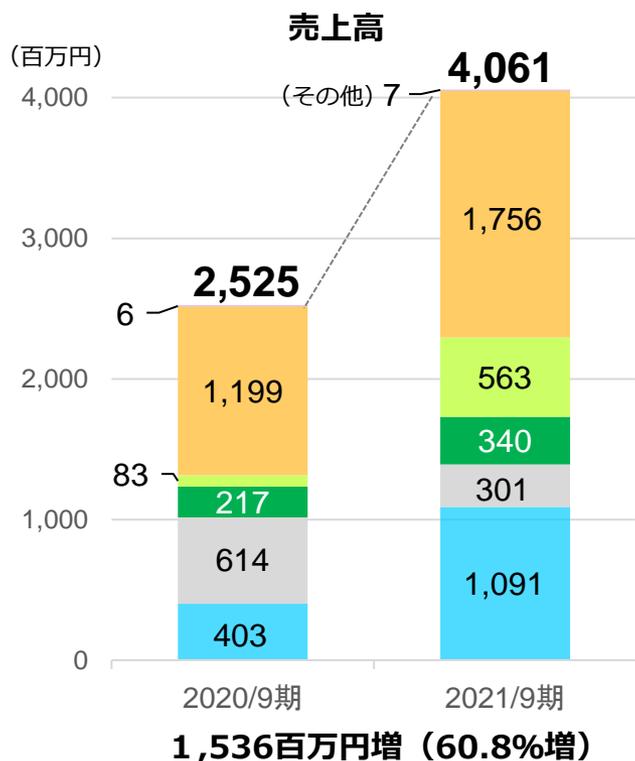
エンタテインメント・サービス事業

全社費用または取引消去

投資銀行事業セグメントー業務別売上高、売上総利益

プライベートエクイティ投資（業務受託、企業投資）と、航空機AMが好調。

- ・ **業務受託** 複数の事業承継に関連するPE投資案件の業務受託により、増収。
- ・ **アセット投資** 前期に不動産開発案件でエグジットがあった反動で減収。不動産信託受益権販売が進む。
- ・ **メツァビレッジ** 前期の臨時休園による駐車場売上減や、テナント賃料の一部減免の影響がなくなる。
(前期Q2まではムーミン物語にマスターリース(売上原価なし)。前期Q3からテナントに直接賃貸し、運営コストを売上原価に計上。)
- ・ **企業投資** PE投資の回収により、増収。
- ・ **航空機AM** コロナ禍の影響で、金融機関や所有者(レッサー)から、機体検査や機体返還などの技術サービス提供依頼が増加したことにより、売上高、売上総利益とも増加。



- その他
- 航空機アセットマネジメント
- 企業投資
- メツァビレッジ
- アセット投資
- 業務受託 (アレンジ、アセットマネジメント、不動産仲介等)

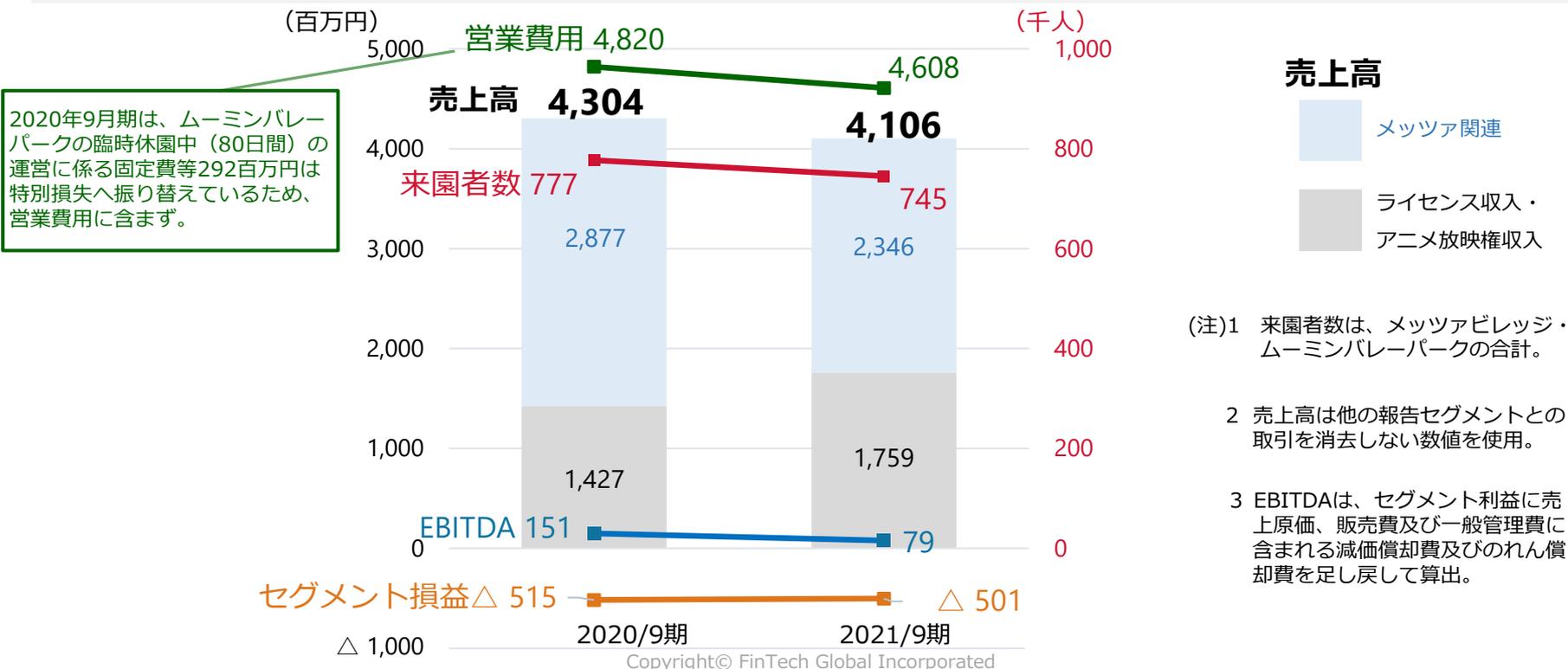
(注) セグメント間の内部売上高は、消去しない数値を使用。

エンタテインメント・サービス事業—業績等

メッツァはコロナ禍により来園者数が低水準で推移。損失は縮小する*も、黒字化に至らず。ライセンス関連は、巣ごもり需要取り込みなどにより市場は拡大し、増収。

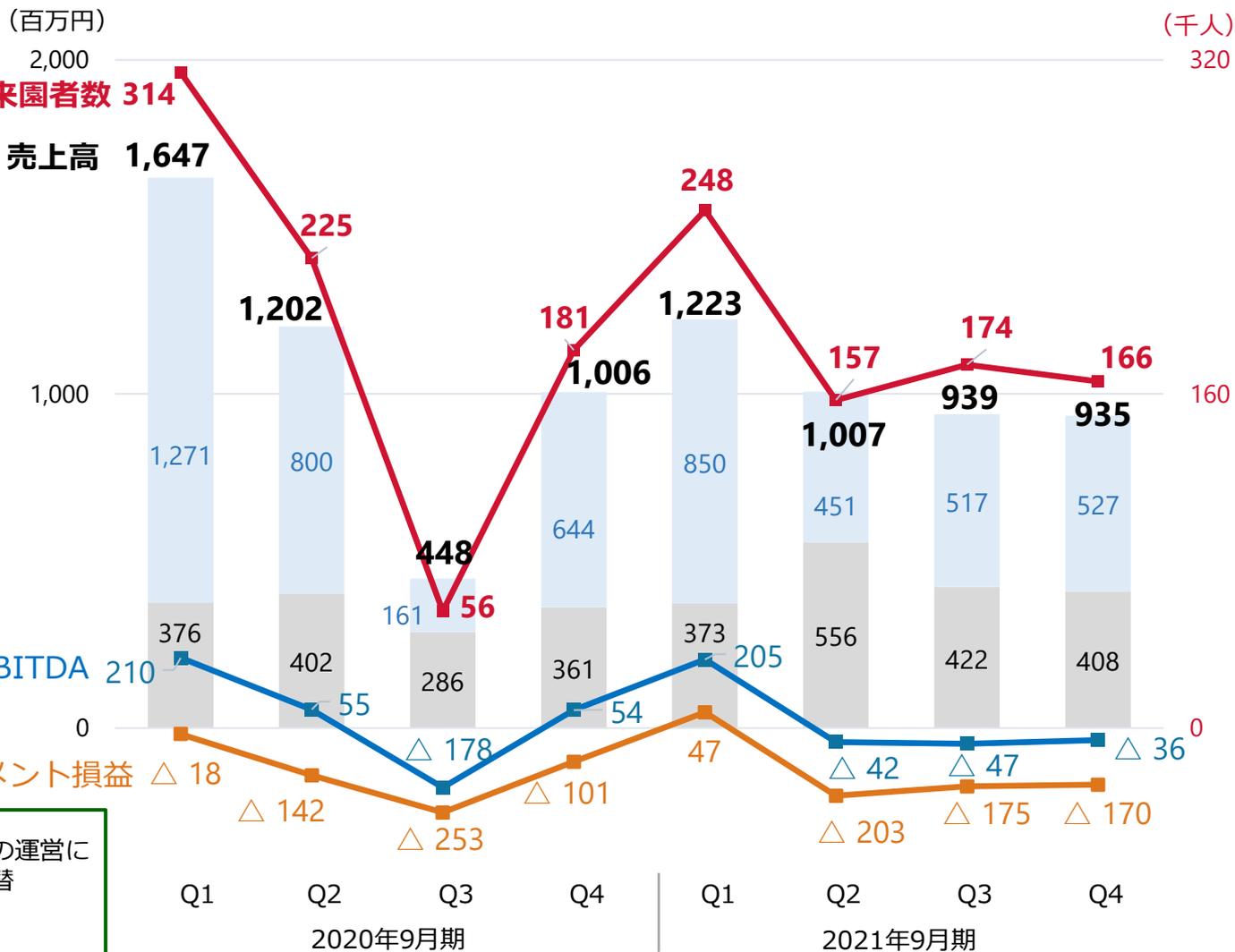
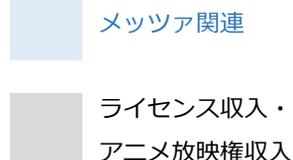
*前期の臨時休園による固定費等の特別損失振替分（292百万円）を考慮すると306百万円改善。

- メッツァ関連**
- ・各種イベント開催や環境演出の強化、アクセス方法の拡充（東京駅発着の高速路線バスなど）により集客に努める。
 - ・メッツァ来園者数は、Q1はイベント効果とコロナ感染縮小により回復したが、Q2-Q4はコロナ感染再拡大により低水準で推移し、前期比4.0%減の74万人。費用を抑えた運営を継続。
 - ・バスツアーなどの団体客がないため、来園者は個人グループ中心。
- ライセンス関連**
- ・ライセンシーの総売上高は拡大基調が続く。
 - ・ブランド価値向上のためのPR活動や、ライセンシーと協力した様々な企画を投入した結果、コロナ下を快適に過ごすための日用品やカジュアルウェアなどの「巣ごもり」需要の取り込みにつながり、ライセンス収入が増加。



エンタテインメント・サービス事業—業績等（四半期）

売上高



(注)1 来園者数は、メッツァビレッジ・ムーミンバレーパークの合計。

2 売上高は他の報告セグメントとの取引を消去しない数値を使用。

3 EBITDAは、セグメント利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

臨時休園中のムーミンバレーパークの運営に係る以下の固定費等は特別損失へ振替
 2020年9月期 Q2 71百万円
 2020年9月期 Q3 220百万円

投融資残高の推移

2021年9月期第4四半期（2021/7～2021/9）の主な変動要因

■ プリンシパルインベストメント

- ・(株)ムーミン物語株式と同社に出資するファンド出資持分を減損処理（411百万円）により減少。

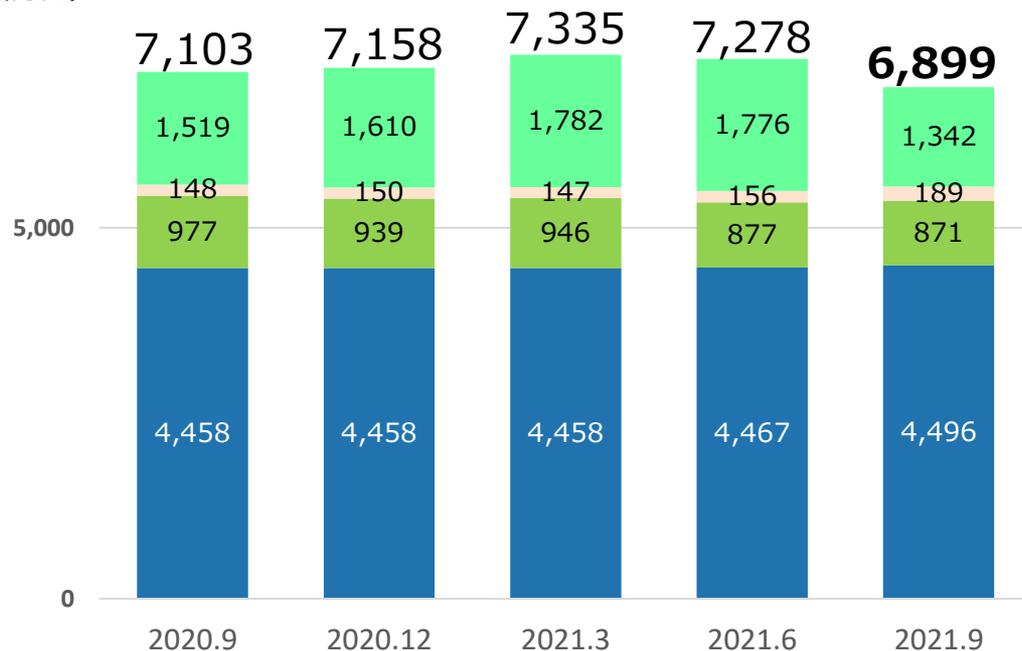
子会社フィンテックグローバルトレーディング（FGT）は、第4四半期に全出資持分等を当社と当社子会社の合同会社SGIインベストメントに譲渡し、清算しました。このため、従来は当社とFGTの合計額を投融資残高としてきましたが、2021年9月から、当社、SGIインベストメントの投融資額合計とします。

（2020年9月～2021年6月分は、当社、FGT、SGIインベストメントの合計）

なお、合同会社SGIインベストメントは組織変更により、2021年11月中に、aviner（株）となる予定です。

投融資合計額（子会社への出資を含む）

（百万円）



（注）FGI、FGT、SGIインベストメント間の出資・貸付は、含めず。

■ プリンシパルインベストメント

ベンチャーキャピタルファンドへの投資を除く営業投資有価証券、投資有価証券、関係会社株式、関係会社出資金の合計額。

■ ベンチャーキャピタルファンド

FinTech GIMV Fund（FGF）、他2ファンドへの投資

■ 企業融資

営業貸付金、子会社への短期貸付金の合計額。全額引当している債権は含めないが、子会社貸付は全額計上。

■ 不動産等(メツア)

メツアにおける不動産。メツアビレッジの不動産は仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。ムーミンバレーパークの土地は、法的には地域SPCに譲渡しているが会計上は当社固定資産に計上しているため、当該金額に含めている。

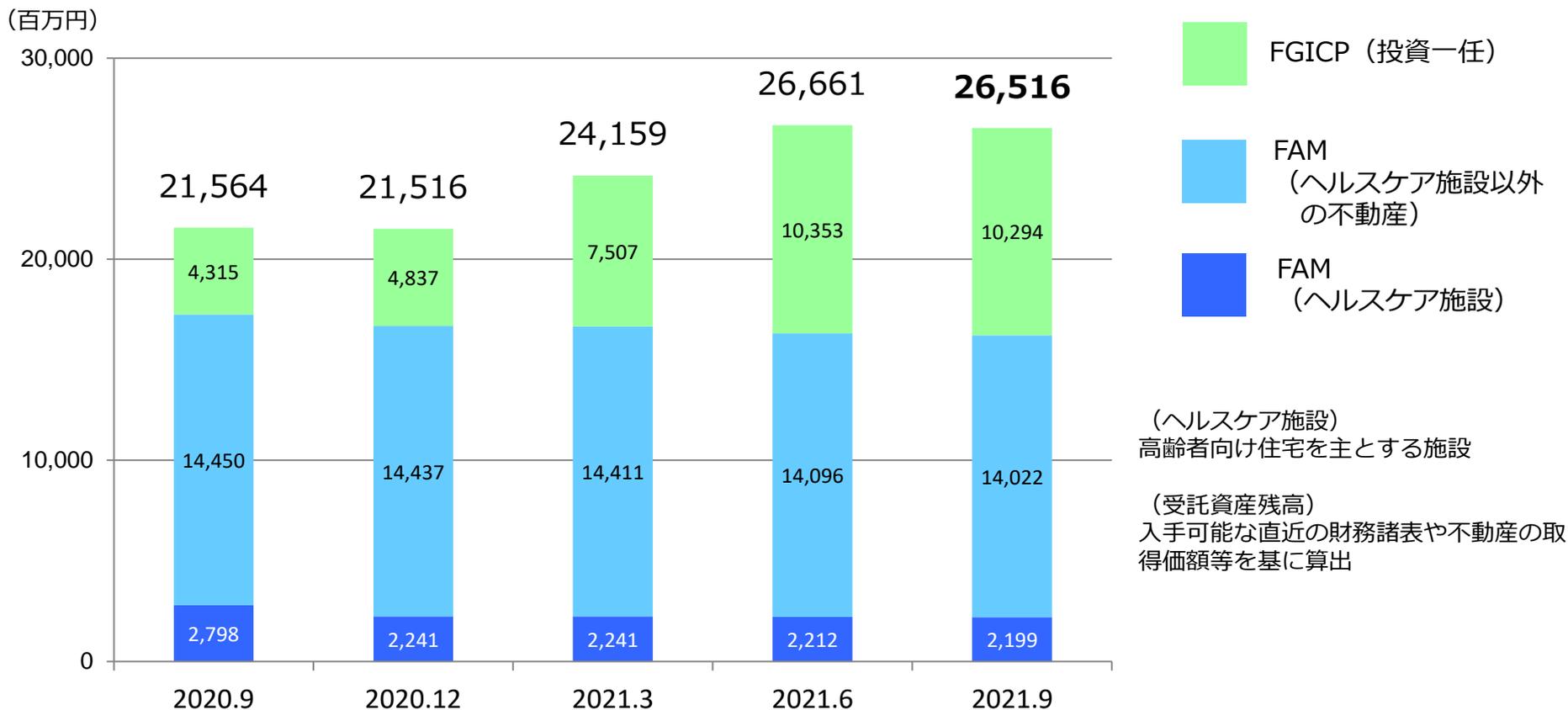
受託資産残高の推移

フィンテックアセットマネジメント (FAM)
FGIキャピタル・パートナーズ (FGICP)

受託資産残高は、2020年9月末比で、49億円増加（23%増）

（2021年9月期の主な変動要因）

- ・ FAM（不動産アセットマネジメント）では、第1四半期にヘルスケア施設への投資においてエグジットにより減少したほか、不動産小口化商品の販売により、期を通じて漸次減少。
- ・ FGICP（有価証券などへの投資）では、特定層に向けたファンド運用残高が増加。
Q3には再生可能エネルギー関連案件の運用を開始。受託資産残高は59億円増加（139%増）



連結貸借対照表

資産の部

	20年9月期	21年9月期	増減
流動資産	8,803,255	9,167,569	364,313
現金及び預金	2,162,069	2,379,230	217,161
1 受取手形・売掛金	564,724	753,826	189,102
2 営業投資有価証券	1,128,045	1,042,651	△ 85,394
営業貸付金	514,798	455,415	△ 59,383
販売用不動産	3,999,865	4,038,343	38,478
商品	257,591	192,176	△ 65,414
その他	272,878	398,443	125,565
貸倒引当金	△ 96,718	△ 92,518	4,199
固定資産	7,780,293	7,290,019	△ 490,274
3 有形固定資産	6,705,906	6,299,105	△ 406,800
無形固定資産	600,756	616,310	15,554
投資その他の資産	473,630	374,602	△ 99,028
資産合計	16,583,548	16,457,588	△ 125,960

1 航空アセットマネジメント、ムーミンのライセンス関連などに係る売掛金が増加。

2 成長企業やPE投資を行うファンドへの新規投資を実行するも、子会社SPCの不動産信託受益権売却が進行し減少。

3 ムーミンバレーパークの建物、内外装等の減価償却により減少。

4 アセット投資案件に係る借入返済により、減少。

5 ムーミンバレーパークの特殊内外装に係るリース債務の返済により、減少。

負債の部

(単位：千円)

	20年9月期	21年9月期	増減
流動負債	2,333,428	2,391,910	58,481
支払手形・買掛金	109,597	130,687	21,089
短期借入金	69,701	125,600	55,898
4 1年内返済予定の長期借入金	615,111	393,194	△ 221,917
未払法人税等	97,250	75,228	△ 22,021
リース債務	222,578	247,203	24,624
賞与引当金	130,666	146,703	16,036
その他	1,088,523	1,273,293	184,770
固定負債	6,945,738	6,626,556	△ 319,181
長期借入金	6,125,744	6,041,300	△ 84,444
5 リース債務	581,872	388,207	△ 193,665
繰延税金負債	96,324	64,885	△ 31,438
退職給付に係る負債	108,259	99,040	△ 9,219
その他	33,536	33,122	△ 413
負債合計	9,279,166	9,018,467	△ 260,699

純資産の部

株主資本	6,294,416	6,329,582	35,165
資本金	6,462,062	6,462,099	36
資本剰余金	5,016,132	4,987,549	△ 28,582
利益剰余金	△ 5,183,778	△ 5,120,066	63,711
その他の包括利益累計額	△ 36,213	△ 918	35,295
新株予約権	64,045	78,503	14,457
非支配株主持分	982,133	1,031,953	49,819
純資産合計	7,304,381	7,439,120	134,738
負債純資産合計	16,583,548	16,457,588	△ 125,960

連結損益計算書

	2020年9月期		2021年9月期		(単位：千円)			
	売上高	売上比	売上高	売上比	増減額	増減率		
売上高	1	6,841,351	100.0%	8,107,368	100.0%	1,266,017	18.5%	
売上原価		4,528,162	66.2%	4,736,690	58.4%	208,528	4.6%	
売上総利益	2	2,313,189	33.8%	3,370,678	41.6%	1,057,489	45.7%	
販売費及び一般管理費	3	3,306,151	48.3%	3,192,590	39.4%	△ 113,561	△ 3.4%	
営業利益又は営業損失 (△)		△ 992,962	△ 14.5%	178,088	2.2%	1,171,050	—	
営業外収益		38,487	0.6%	4	72,165	0.9%	33,678	87.5%
営業外費用		180,933	2.6%	134,409	1.7%	△ 46,524	△ 25.7%	
経常利益又は経常損失 (△)		△ 1,135,408	△ 16.6%	115,844	1.4%	1,251,252	—	
特別利益		88,587	1.3%	8,162	0.1%	△ 80,425	△ 90.8%	
特別損失		397,255	5.8%	5,387	0.1%	△ 391,868	△ 98.6%	
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失 (△)		△ 1,444,076	△ 21.1%	118,619	1.5%	1,562,695	—	
法人税等合計		69,914	1.0%	94,667	1.2%	24,752	35.4%	
当期純利益又は当期純損失 (△)		△ 1,513,990	△ 22.1%	23,952	0.3%	1,537,943	—	
非支配株主に帰属する当期純損失 (△)	5	△ 327,983	△ 4.8%	△ 106,853	△ 1.3%	221,129	—	
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 (△)		△ 1,186,007	△ 17.3%	130,806	1.6%	1,316,813	—	

1 投資銀行事業において、複数のPE投資案件が投資回収に至り、航空機AMも好調に推移して増収。

2 原価率が低い投資銀行事業の業務受託等による売上高が伸長したことにより、売上総利益は大幅に増加。粗利率は7.8ポイント改善。

3 投資銀行事業において微増となる一方、メツアではコストを削減し、3.4%減。

4 埼玉県飯能市よりメツアに係る企業立地奨励金等52百万円の交付を受ける。その他の収入と合わせて、助成金収入55百万円を計上。

5 ムーミン物語及び地域SPCの損失減少、ならびにライセンス・アンド・ブランド及びSGIの利益拡大により、非支配株主に帰属する当期純損失が減少。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	20年9月期	21年9月期	増減額
営業CF	680,037	747,781	67,744
税引前当期純利益	△ 1,444,076	118,619	1,562,695
減価償却費	805,075	619,704	△ 185,371
のれん償却額	40,358	19,976	△ 20,381
売上債権の増減	157,369	△ 164,446	△ 321,815
営業投資有価証券の増減	230,407	97,480	△ 132,926
たな卸資産の増減	203,530	30,210	△ 173,320
仕入債務の増減	△ 102,461	17,906	120,368
法人税等の支払額	△ 82,463	△ 203,188	△ 120,725
その他	872,298	211,519	△ 660,779
投資CF	△ 282,678	△ 173,478	109,199
固定資産支出	△ 288,013	△ 189,170	98,842
その他	5,334	15,691	10,356

	20年9月期	21年9月期	増減額
財務CF	△ 767,192	△ 360,360	406,831
短期借入金の増減	△ 451,929	55,642	507,572
長期借入れによる収入	664,000	100,000	△ 564,000
長期借入金の返済	△ 714,668	△ 406,361	308,307
非支配株主からの払込	—	202,970	202,970
ファイナンス・リース債務の返済	△ 215,335	△ 222,578	△ 7,243
その他	△ 49,259	△ 90,033	△ 40,774
現金等の換算差額	△ 1,285	23,218	24,504
現金等の増減額	△ 371,118	237,161	608,279
現金等の期首残高	2,513,187	2,142,069	△ 371,118
現金等の期末残高	2,142,069	2,379,230	237,161

業績見通し

連結業績予想

(単位：百万円)	2021年9月期 実績	2022年9月期 予想値	増減額	増減率
売上高	8,107	8,000	△107	△1.3%
営業利益	178	450	271	152.7%
経常利益	115	300	184	159.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	130	100	△30	△23.6%

■セグメント別の見通し

投資銀行事業	<ul style="list-style-type: none"> ・プライベートエクイティ投資の加速化。投資回収による収益拡大。 ・事業承継等の案件を通じたアセット投資によるAUM(受託資産残高)の積み上げと業務受託の獲得。 ・「地方」の様々なプロジェクトに対しファイナンスを提供。アレンジメントの推進。 ・航空業界は、コロナの収束が見られ、徐々に回復が進んでいるが、航空機AMによる機体検査等の技術サービス提供は一定程度の需要を見込む。
公共コンサルティング事業	<ul style="list-style-type: none"> ・個別施設計画等を踏まえた公共施設等総合管理計画の見直し業務支援の拡大による収益拡大。
エンタテインメント・サービス事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ムーミンバレーパークのリニューアル実施。 ・ライセンス事業は、グローバル戦略“One-Moomin”に連動した戦略を推進。NHKの地上波にて「ムーミン谷のなかまたち」の放映がスタート(11月6日)。認知度の広まりにより増収を見込む。

FGI プライベートエクイティ投資の加速化と収益拡大。

- 後継者不在、コロナ禍による経営環境の悪化等、様々な経営課題を抱えた企業のオーナーからの引き合いが増加する中、積み重ねたノウハウにより、プライベートエクイティ投資の加速化を図り、収益拡大を図ります。

加速化の為の実行施策

Point 1 組織の見直し、営業体制を強化。

Point 2 地域金融機関、及び会計事務所等の取引先との関係深化。

Point 3 企業分析等のノウハウの蓄積。

FAM

事業承継等を通じたアセット投資によるAUM(受託資産残高)の積み上げ。

(第二種金融商品取引業、不動産特定共同事業)

- 事業承継等を通じたアセット投資により、AUMの積み上げを図ります。また、海外投資家からのアセット・マネジメント業務の引き合いや、運用商品の組成を通じたAUMも増加中です。

公共コンサルティング事業と一体での「地方」への取り組み

FGI

「地方」の様々なプロジェクトに対しファイナンスを提供。 中長期的なアレンジメントの推進と高い価値の創出。

- ファイナンス案件を実行するための「仕組み」の策定、投資家の招聘および意見調整、法的・会計的・税務的な視点からの検証等、多様な顧客のニーズに即し具体化します。



地域・地方自治体の課題解決の取り組みとして、自治体の業務支援を拡大。

- 公会計支援業務の公会計情報を活用し、自治体の公共施設の個別施設計画等を踏まえた公共施設等総合管理計画の見直し業務(※)支援の拡大を図ります。

(※)地方財政の公共施設更新費用が増加する中、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化する取り組み。

1. ムーミンバレーパーク リニューアル [メッツア関連]

11日間休園 (2021/11/29-12/9) 12/10に営業再開

・新しいテーマは **“Well-being”**

ムーミンバレーパークが考えるWell-beingは、「心もからだも心地よい状態が継続すること」。
訪れたゲストが、ムーミン、作者トーベ・ヤンソンの故郷フィンランド、そして自然を通してのんびりでき、心とからだ笑顔になれる新しいムーミンバレーパークになります。

2. “One-Moomin”推進 [ライセンス関連]

・グローバル戦略 **“One-Moomin”** に連動した主な 4 戦略

Strategy 1 → グローバル戦略に連動し、ビジュアルプレゼンテーションを統一する

Strategy 2 → データに基づくマーケティングを実施するため、統一的CRMプラットフォームを構築する

Strategy 3 → 販売機会拡大に向けて新規市場へ参入する

Strategy 4 → BtoCプロモーションを強化し、認知度拡大・売上増に貢献する

“One-Moomin” とは

ムーミンのライセンサーであるMoomin Characters Oy Ltd、R&B Licensing ABが掲げるムーミンブランドのグローバル戦略。基本コンセプトは、ムーミンのビジネスにかかわる多様な関係者が、協働しながら共に成長できること。

コロナ禍の長期化

- ・来園者数の回復の遅れ
- ・団体客、遠方の来園者の大幅減少
- ・コロナ再拡大の懸念

来園者調査結果

- ・来園動機は、「自然」「癒し」「安らぎ」
- ・高評価項目は、「自然」「リラックス」「おちついた」「家族で楽しむ」

Well-beingを テーマとして リニューアル

- ・シンプルな運営形態
- ・「自然」「リラックス」などがコア来園者層のニーズにマッチ
- ・コスト削減により財務収支を均衡
コロナ再拡大に対して持続可能性を高める
- ・リニューアルと併行して、ECサイトを開設
新たな収益機会とする

リニューアルによる主な施設運営の変更

詳細は、順次メッツァ公式サイトでお知らせします。

もっとムーミンたちと会える場所に

パークの各所でのグリーティングにより、もっとムーミンたちに出会うことができます。



子どもと一緒に遊べて学べる「キッズスペース」

現在の展示施設「コケムス」2Fの「ワークショップ」を変更
幼児向けの木製のおもちゃ、ソフトブロック、絵本などをご用意します。



ムーミン関連の書籍がずらりと揃う 「ライブラリー カフェ」

現在の展示施設「コケムス」2Fの「ショップ&レストラン」を変更

ムーミン関連以外にも、フィンランド関連の書籍も充実。
フィンランドの図書館のようにボードゲームも楽しめます。



焼きたてシナモンロールの香りで満たされる 「レットウラ ラウンジ」

現在の「パンケーキレストラン」を変更

シナモンロールをはじめ、美味しいパンが購入できます。



わかりやすい料金体系に

1デーパス大人 3,200円、小学生以下2,000円に統一

従来の「入園チケット/1デーパス」の券種が「1デーパス」のみのシンプルな価格体系に。
 12月10日以降のチケットは、11月11日16:00から販売予定。
 12月10日からは、メッツアビレッジインフォメーションでも1デーパスがご購入できるようになります。

~11/28	12/10~
<p>入園チケット</p> <p>おとな(中学生以上) 2,500円 こども(4歳以上小学生以下) 1,500円</p>	<p>1デーパス</p> <p>おとな(中学生以上) 3,200円</p> <p>こども(4歳以上小学生以下) 2,000円</p>
<p>1デーパス</p> <p>おとな(中学生以上) 4,200円 こども(4歳以上小学生以下) 2,300円</p>	

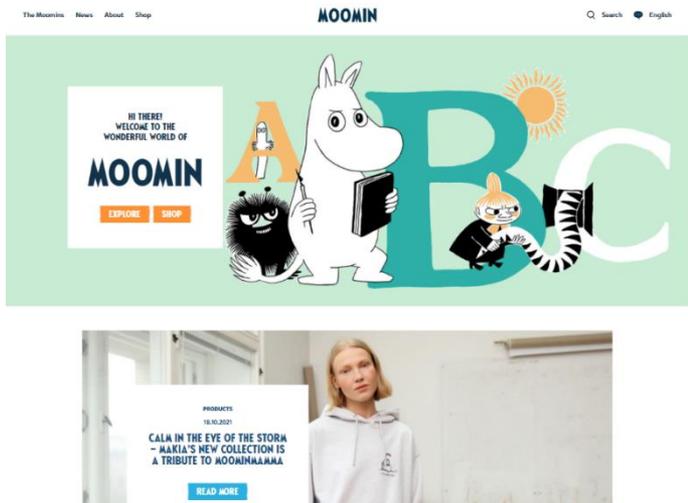
※前売り券はそれぞれ200円引きとなります ※3歳以下は無料となります ※表示価格は全て税込価格となります

2022年における日本市場の更なる拡大のための戦略

Strategy 1

グローバル戦略に連動し、
ビジュアルプレゼンテーションを統一する

日本の公式サイト、Instagram、twitterなどを本国フィンランドのビジュアルに統一



フィンランドのムーミン公式サイト

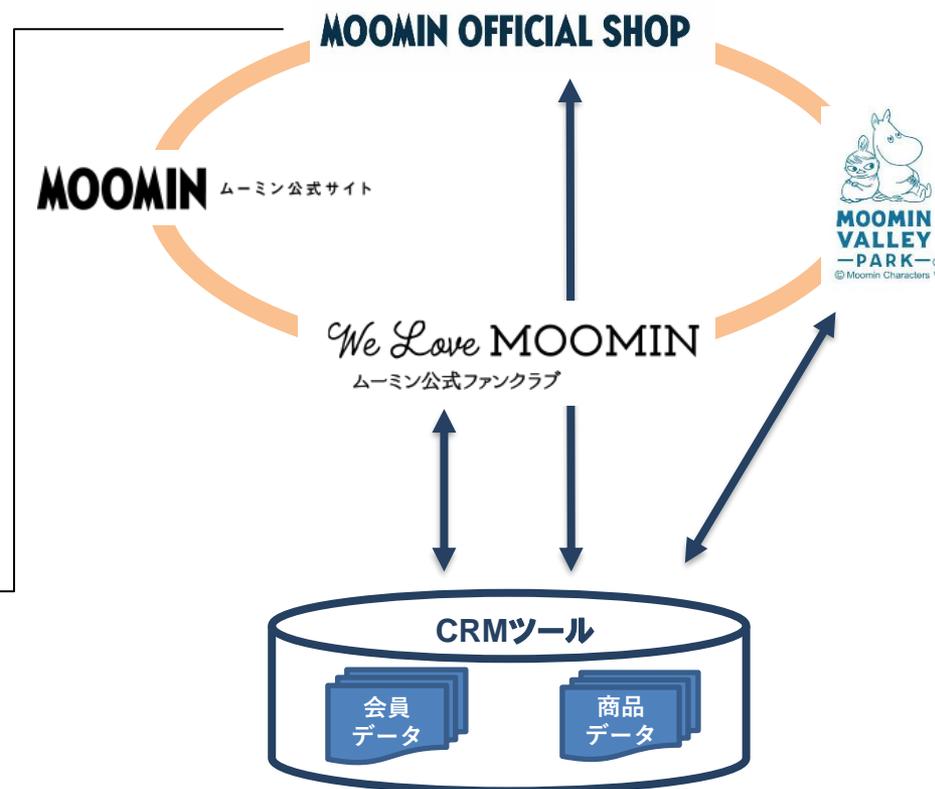
新ECサイト MOOMIN OFFICIAL SHOP

ムーミンキャラクターズ、およびライツ・アンド・ブランドズの支援のもと、ムーミン物語がECサイトを開設。
2021年12月にプレオープン。2022年3月に本格ローンチ予定。

Strategy 2

データに基づくマーケティングのため、
統一的CRMプラットフォームを構築する

- ・ユーザーは公式サイトを起点として、サイト間を一つのIDとパスワードで行き来。
- ・会員データと商品データは、プラットフォーム上で一元管理。



2022年における日本市場の更なる拡大のための戦略

Strategy 3

販売機会拡大に向けて新規市場へ参入する

- ・ 2021/11/6より「ムーミン谷のなかまたち」のアニメが、NHK Eテレで地上波放送をスタート
- ・ ムーミンの更なる認知拡大、特に若年層への認知拡大の絶好の機会として、キッズ市場への参入を本格的に行う。



Strategy 4

BtoCプロモーションを強化し、認知度拡大・ライセンス売上増に貢献する

- ・ 年間マーケティングカレンダーを策定し、年間4回以上の全国統一プロモーションを実施。ライセンス様向けのプロモーションガイドも制作、配布し、ライセンス参画型の仕掛けを導入。
- ・ 多くのフォロワーを擁するオウンドメディアをBtoCへの情報発信に活用し、効果的・効率的な売上向上に貢献。

MOOMIN ムーミン公式サイト

月間200~300万PV



友だち 196万人



23万フォロワー



5.4万フォロワー

連結経営指標等の推移

		2016年 9月期	2017年 9月期	2018年 9月期	2019年 9月期	2020年 9月期	2021年 9月期
売上高	(百万円)	7,485	7,182	3,689	9,175	6,841	8,107
売上総利益	(百万円)	1,496	1,626	2,261	2,944	2,313	3,370
営業利益又は営業損失(△)	(百万円)	△ 1,031	△ 1,319	△ 1,072	△ 1,664	△ 992	178
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	△ 1,369	△ 1,341	△ 1,227	△ 1,850	△ 1,135	115
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	△ 1,384	△ 1,358	△ 820	△ 1,586	△ 1,186	130
純資産	(百万円)	6,312	5,326	8,551	8,873	7,304	7,439
総資産	(百万円)	10,975	12,932	14,016	19,025	16,583	16,457
1株当たり純資産	(円)	38.66	29.64	39.31	37.03	31.12	31.47
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)	(円)	△ 8.56	△ 8.39	△ 4.79	△ 8.08	△ 5.90	0.65
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	-	-	-	-	-	0.65
自己資本比率	(%)	57.0	37.1	52.2	39.1	37.7	38.5
自己資本利益率	(%)	△ 19.7	△ 24.6	△ 13.5	△ 21.5	△ 17.3	2.1
株価収益率	(倍)	-	-	-	-	-	86.10
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 1,305	△ 1,153	△ 2,978	△ 2,604	680	747
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 302	△ 1,026	△ 2,008	△ 4,543	△ 282	△ 173
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 751	2,937	5,771	5,710	△ 767	△ 360
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	2,240	2,969	3,847	2,513	2,142	2,379
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	114(20)	143(27)	156(47)	167(262)	156(224)	149(209)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	45(8)	40(6)	38(5)	39(5)	28(6)	28(4)

フィンテック グローバル株式会社 会社概要

本店所在地	東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア15階		
設立	1994年12月7日		
代表	代表取締役社長 玉井 信光		
上場日	2005年6月8日		
証券コード	8789 (東京証券取引所市場第二部)		
事業年度	10月1日から9月30日まで		
事業内容	①投資銀行事業 ②公共コンサルティング事業 ③エンタテインメント・サービス事業		
発行済株式総数	201,115,600株 (2021年9月30日現在)		
単元株式数	100株		
資本金	6,462百万円	(2021年9月30日現在)	
連結純資産	7,439百万円	(2021年9月30日現在)	
大株主 (2021年9月30日現在)	玉井 信光 (株)CAT-MY	10,095,500株 (5.02%) 10,000,000株 (4.97%)	
連結従業員数	149名	(2021年9月30日現在、臨時従業員含まず)	

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2021年9月期決算に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」ということがあります）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。